パナソニックの生物多様性の取組み

２０１１年１２月１５日

パナソニック株式会社
環境本部

創業１００周年ビジョン

エレクトロニクスNo.1の「環境革新企業」

全事業活動の基軸に「環境」を置き、
イノベーションを起こす

Green Life Innovation

心豊かなグリーンライフスタイルを実現

Green Business Innovation

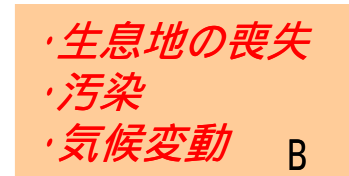
究極の環境負荷低減を実践･提案

グリーンプラン２０１８

２０１８年目標	
ＣＯ２削減	ＣＯ２総量をピークアウト（生産活動＋商品使用時）
	エナジーシステム事業を３兆円以上に拡大
資源循環	資源を有効活用する循環型モノづくりを追求
水	水使用量を最小化
化学物質	化学物質による環境負荷を最小化
生物多様性	生物多様性への影響把握と保全に貢献
環境配慮Ｎｏ.１商品の売上比率を３０％に拡大（09比倍増）	
ステークホルダーとの協働で環境貢献を拡大	

それぞれに取り組み細目も設定

パナソニックの事業活動と生物多様性との関係性

ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ環境ﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸ2008よ

事業プロセスと生物多様性への影響

事業活動での生物多様性への影響		
事業プロセス	土地利用	・土地改変、植生改変 ・外来種の移入
	調達	・森林伐採 ・鉱物採掘による土地改変
	設計・製造	・気候変動 ・環境汚染 大きくとらえると既に取組み中：省エネ、省資源、化学物質
	輸送・販売	
	使用・保守	
	廃棄・リサイクル	

商品	生物多様性に貢献する商品

生物多様性保全への貢献

２０１８年目標　生物多様性への影響把握と保全に貢献

商　品

生物多様性に貢献する商品を拡大

調　達

持続可能な木材資源の利用促進

土地利用

地域の生物多様性に貢献する企業緑地づくり

自治体･国際環境ＮＧＯ･専門機関と連携

商品分野の取組み

生物多様性に直接関係が深い商品に的をあて、
生物多様性にどのような影響を与えているのか
どんなリスクやチャンスが考えられるのか
第三者の専門家に評価していただく

連携

国際環境ＮＧＯ　バードライフ･インターナショナル

生物多様性評価の対象3商品

生物多様性に関係が深いと考えられる商品を評価

生態系の撹乱低減に関係する商品

低誘虫照明「ムシベール」

虫を誘引する光の波長をカットする加工をカバー等に施し、虫を寄せ付けにくくした商品

農作物病害防除照明「タフナレイ」

未照射

照射

特定波長域の光をいちごに照射し、うどんこ病への抵抗力が高まることで、農薬散布量を削減

生物資源の持続可能な利用に関係するする商品

竹繊維を振動板に使用「竹繊維スピーカー」

従来使用していた針葉樹と比較し、生育の早い竹を使用することで、森林資源の持続可能な利用に寄与

評価の構成

ムシベールに関する分析結果のまとめ

生物多様性配慮型商品（機能面）としての総合評価

照明による生態系撹乱を低減する商品として評価する

生物多様性への依存	生物多様性への影響
昆虫が特定波長域の光に集まる習性を応用した商品。商品の存在そのものが生物多様性に強く依存している	従来の照明商品と比較して、昆虫が照明に集まりにくくすることで、生物多様性に対する影響を低減している

正の影響	光や化学物質による撹乱削減。誘引昆虫の減少による昆虫を捕食する動物（鳥類・哺乳類・爬虫類等）への影響低減
負の影響	当該商品でも誘引されてしまう昆虫の種や個体群、地域昆虫相への予期しない影響（可能性は極めて低い）

	規制･法律	世評	市場･製品	財務	社内	リスクタイプ2)
リスク1)	－－	－－	－	－－	－－	Ⅰ
チャンス	＋	＋	＋	＋	＋	

特に自然保護区等の生物多様性上重要な規制区域でのチャンスの可能性

ファーストステップのための行動指針

① 商品パンフレットや取扱説明書、POP等に生物多様性配慮の視点を入れる
② わかりやすい生物多様性配慮型商品のロゴやシンボルマークを作成する
③ 住宅･ビル･店舗･施設のシステム提案に組込み、顧客への浸透を図る
④ 国内の自然保護区や世界自然遺産地域での採用可能性を検討する
⑤ 原材料検討、一層の低誘虫化、高出力照明下での使用等、技術開発の推進

1）リスクとチャンスの記号　－－：無し、－：小さい、＋：中程度に大きい、＋＋：極めて大きい

2）リスクタイプの種類　タイプⅠ：リスク分析でリスクが無いか小さい
タイプⅡ：リスク分析で中程度以上に大きいリスクが１箇所存在する
タイプⅢ：リスク分析で中程度以上に大きいリスクが２箇所以上存在する

生物多様性に対する依存と影響（正と負）

商品に内在する生物多様性上のリスクとチャンス

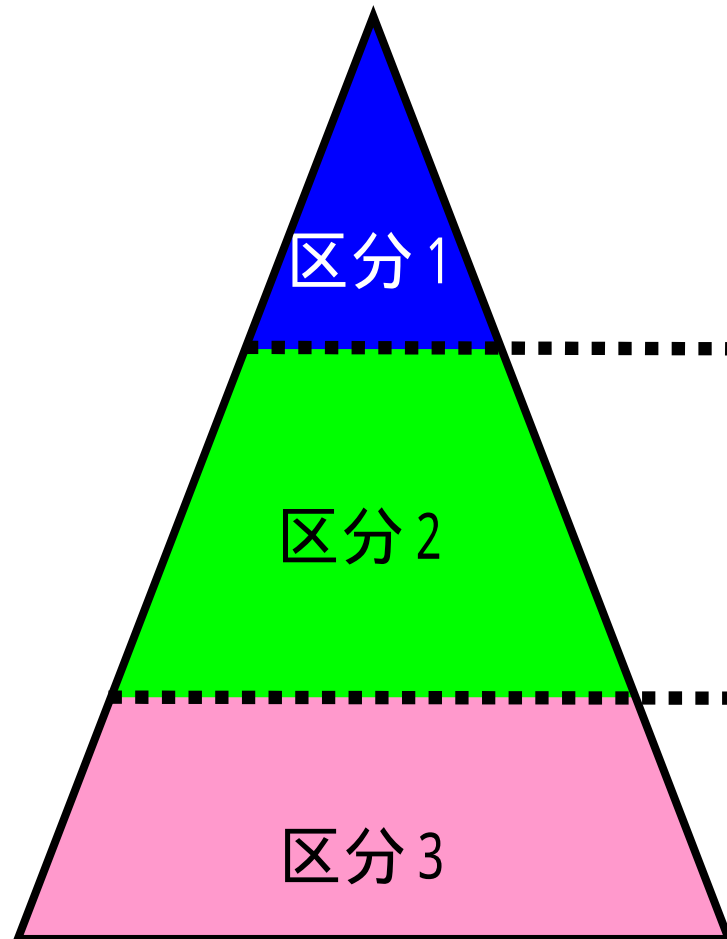
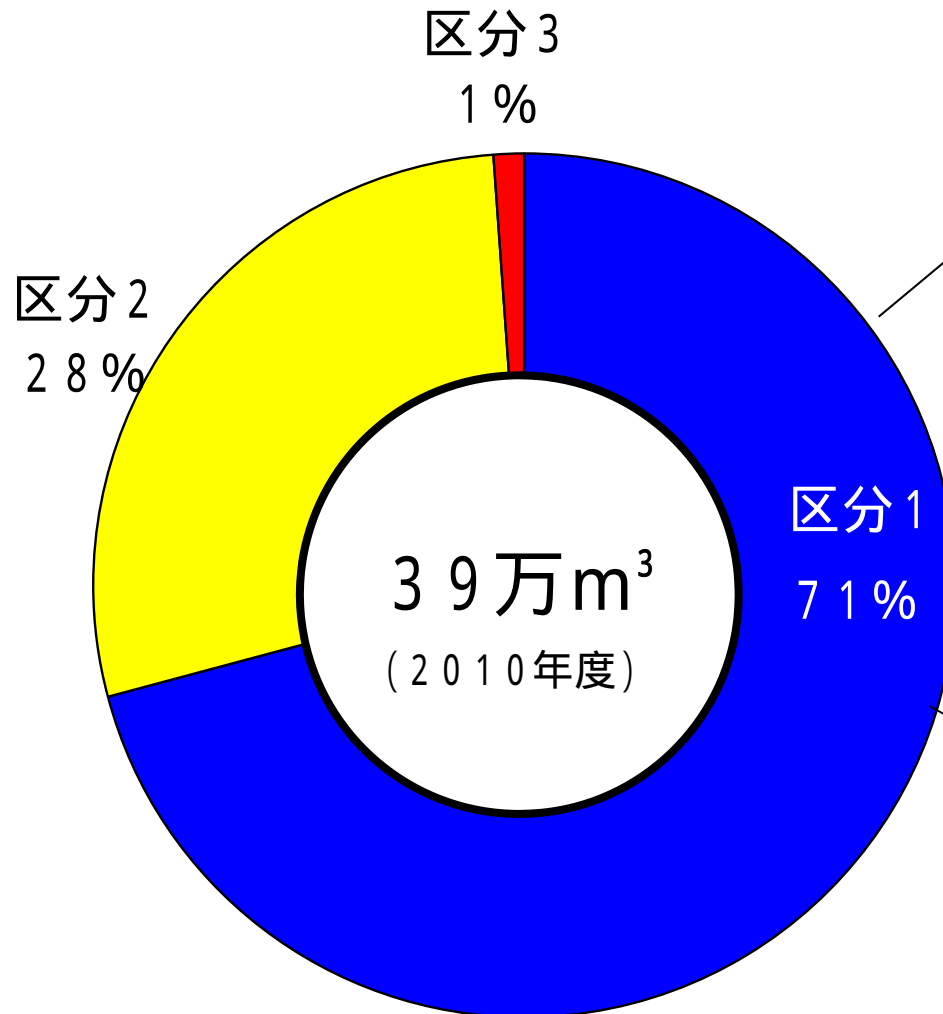
リスクとチャンスの分析結果に基づく次のアクションのための行動指針の提案

調達分野の取組み

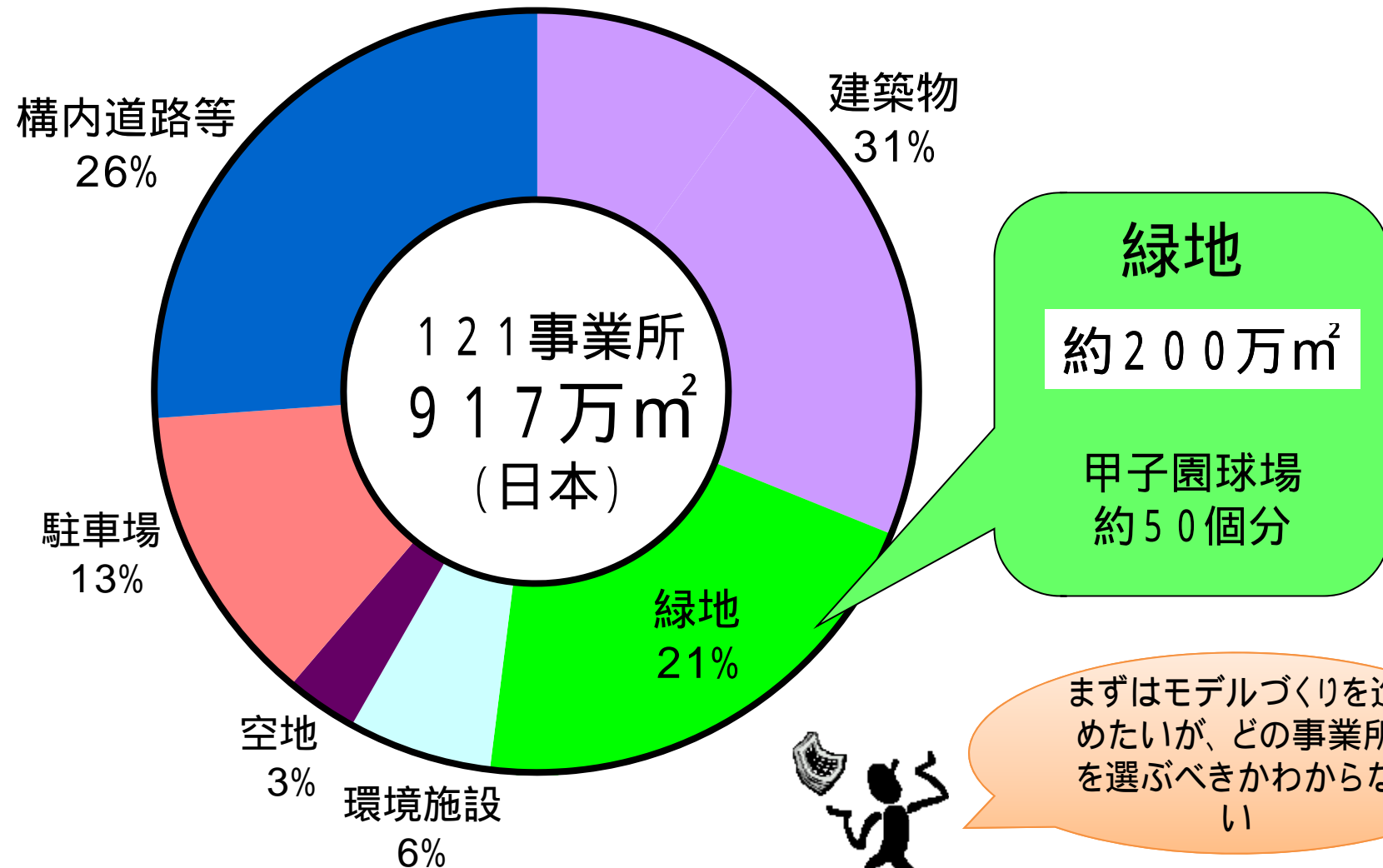
生物資源である木材に的をあて
グリーン調達を推進

連携

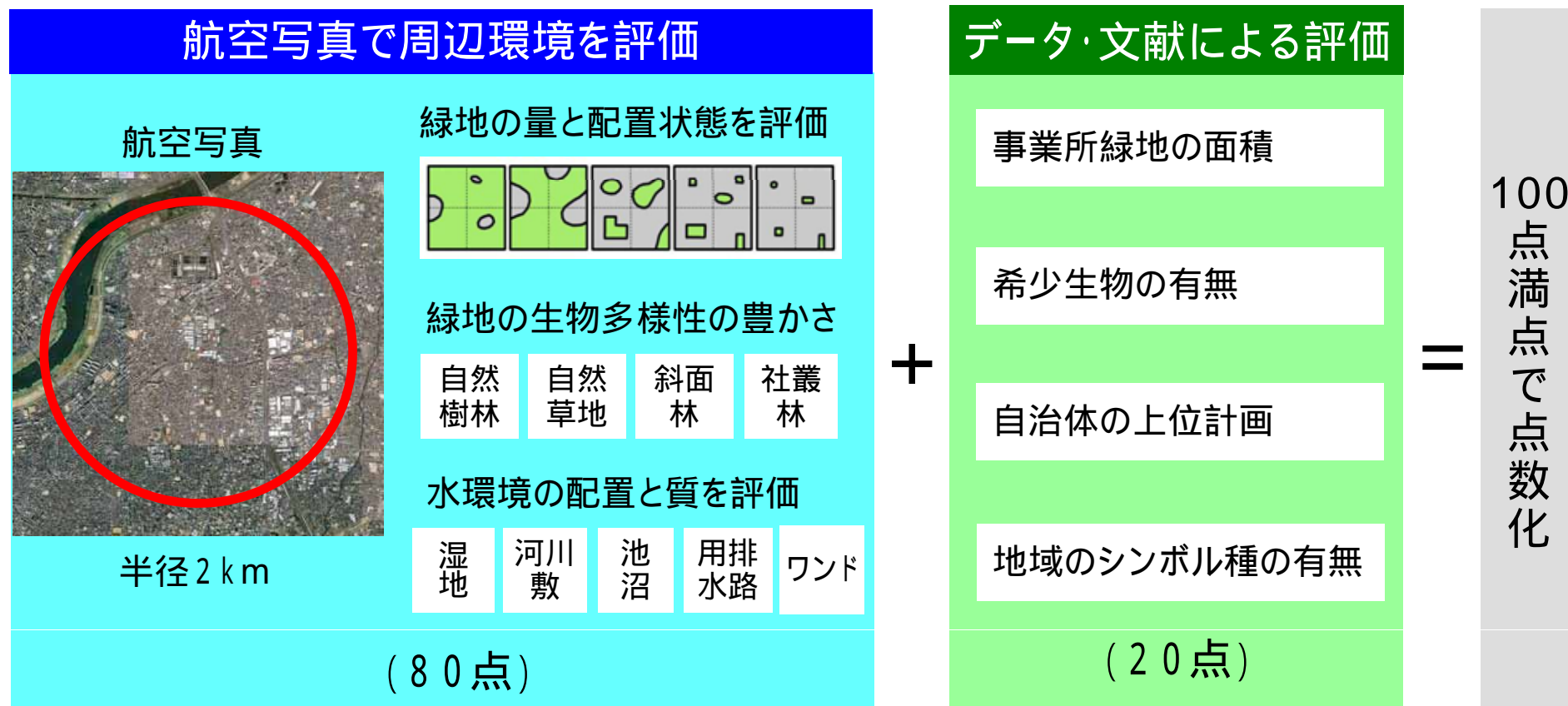
国際環境ＮＧＯ　ＷＷＦジャパン

木材グリーン調達の考え方

木材グリーン調達 調査結果

土地利用分野の取組み

事業所の緑地に的をあて、
地域の生物多様性にどう関係しているのか
どのような貢献ができるのか検討する

パナソニックの土地利用

※2009年末時点

国内121事業所で生物多様性評価

事業所とその周辺の生物多様性の豊かさ等を簡易的に評価

連携　インターリスク総研、地域環境計画、住友林業緑化

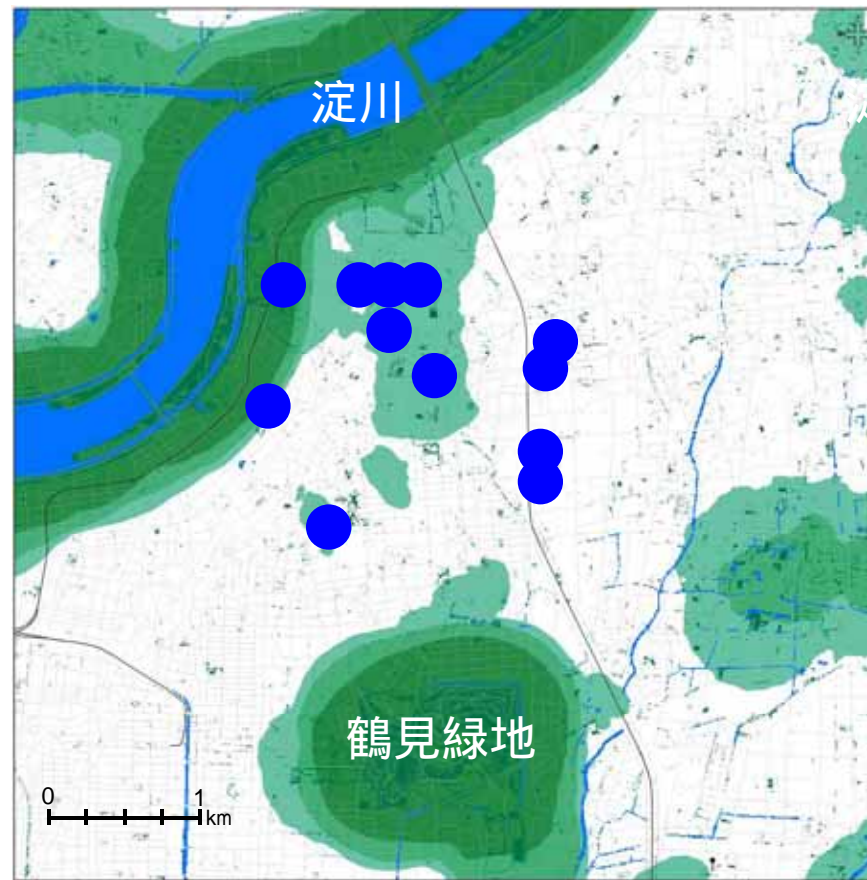
土地利用

モデル地区の選定

環境貢献の視点	周辺の生物多様性評価が低い事業所
地域貢献の視点	周辺に住宅が多く、多くの方が暮らしている地域
取組み効果の視点	１事業所単独ではなく、複数事業所が一体的に取組める地区

大阪府守口･門真地区をモデル地区として選定

■生物多様性評価点	４２点（平均）
■事業所数	パナソニック本社を含む12事業所
■緑地面積合計	約１０万㎡
■立地条件	平地で、周辺に住宅が多い
■周辺の自然環境の特徴	北に淀川、南に鶴見緑地を有する

地域における緑のネットワークの現状

●パナソニック事業所

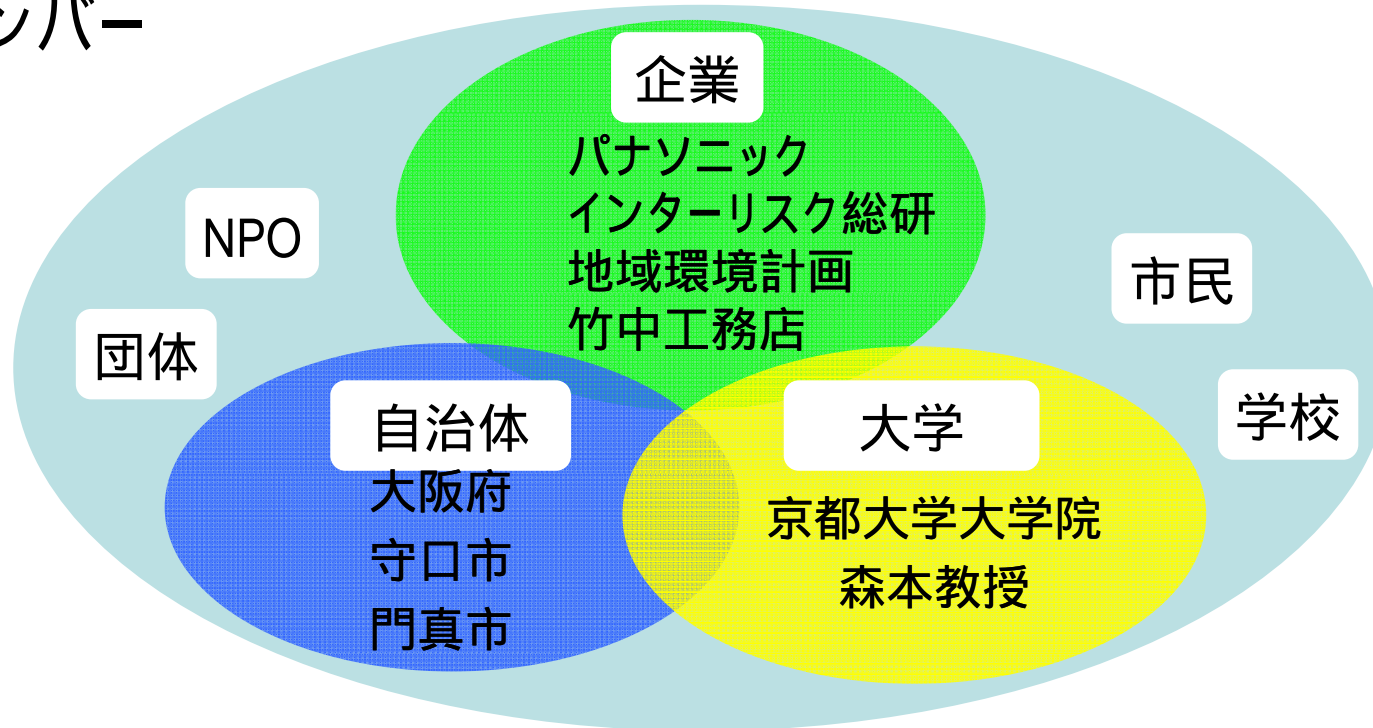
ネットワークとなる緑の量

少 □□□□ 多

淀川と鶴見緑地をつなぐエコロジカルネットワーク構想

様々なステークホルダーとの連携が必要

産官学で「生物多様性連携会議」を設置

■メンバー

■検討テーマ

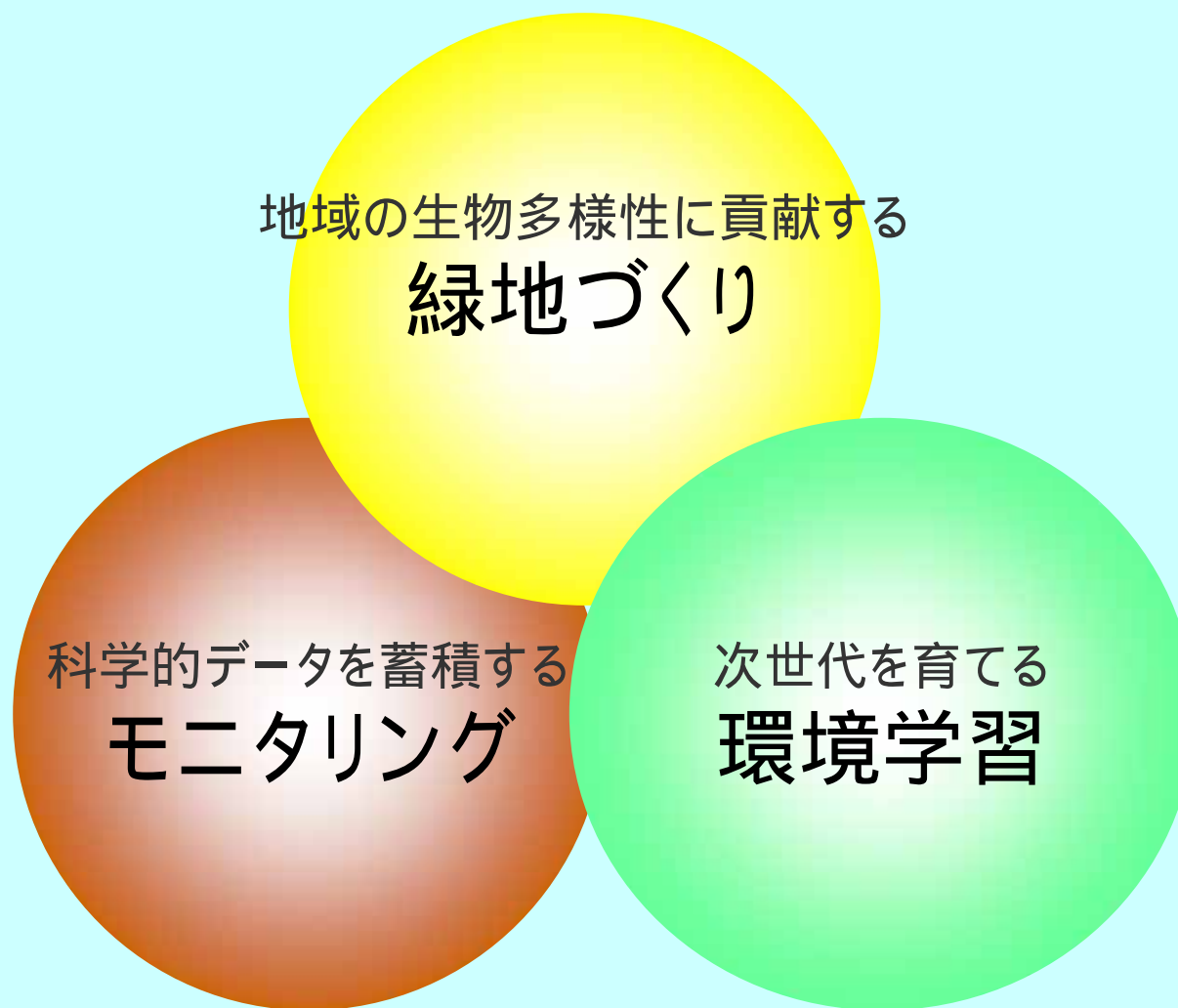
① 多様な生き物を感じる緑地づくり
② 地域特有の生物多様性の回復、再生
③ 科学的なアプローチ
④ 地域協働のプログラム検討

現在準備を進めている取り組み

3つのアプローチ

地域の生物多様性に貢献する
緑地づくり

科学的データを蓄積する
モニタリング

次世代を育てる
環境学習

生物調査の実施（鳥・チョウ・トンボ）

パナソニック構内で見つかった鳥

ムクドリ

キジバト

ハシブトガラス

ドバト

ヒヨドリ

スズメ

*ノビタキ

シジュウカラ

コサメビタキ

ハクセキレイ

*ノビタキは、パナソニック構内で見られたが、
淀川・鶴見緑地では見つからなかった

パナソニック構内で見つかったチョウ

チャバネセセリ

モンシロチョウ

ヤマトシジミ

ツマグロヒョウモン

アオスジアゲハ

キチョウ

ウラギンシジミ

ヒメアカタテハ

ナミアゲハ

ウラナミシジミ

ベニシジミ

パナソニック構内で見つかったトンボ

*クロイトトンボ

シオカラトンボ

アオモンイトトンボ

ギンヤンマ

*アキアカネ

ウスバキトンボ

*クロイトトンボ、アキアカネはパナソニック構内で見られたが、淀川･鶴見緑地では見つからなかった

淀川・鶴見緑地で見つかった鳥

淀川･鶴見緑地で見つかったチョウ

チャバネセセリ

アオスジアゲハ

モンシロチョウ

キチョウ

ヤマトシジミ

ウラギンシジミ

ツマグロヒョウモン

ヒメアカタテハ

ウラナミシジミ

ベニシジミ

この10種については
パナソニック構内でも
確認された

イチモンジセセリ

ヒメジャノメ

ホシミスジ

コムラサキ

キタテハ

ゴマダラチョウ

ツバメシジミ

淀川･鶴見緑地で見つかったトンボ

シオカラトンボ

アオモンイトトンボ

ギンヤンマ

ウスバキトンボ

この4種については
パナソニック構内でも
確認された

ノシメトンボ

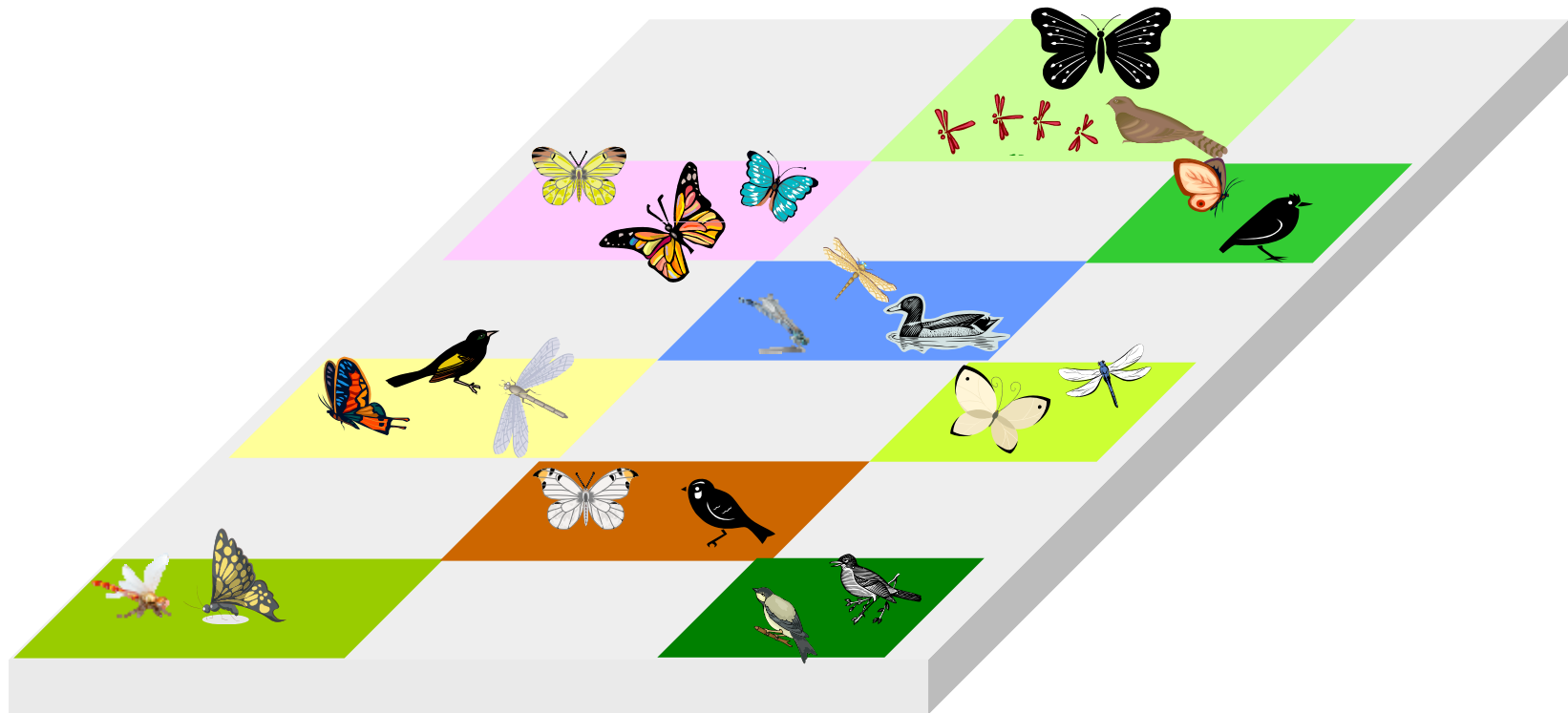
マイコアカネ

ナツアカネ

ネキトンボ

調査結果のまとめ

1．パナソニックの緑地エリアは、一つ一つは規模は小さいが、
水辺の有無や樹林/草地や樹種の違いなど様々なタイプがあり、
全体を合わせると多様な生き物が利用している

2．既存緑地のエコアップと生物多様性を意識した新規緑地の創出で
さらに多様な生き物を支えることができる

生物多様性に配慮した新しい緑地の創出

来春完成
予定

地域の多様な生き物を支え、身近に親しめる緑地をめざす

地球は
有限
エコアイディア
は無限